

## 新・中学保健体育

ポイントをまとめて印刷 ([https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/r7text\\_hotai/](https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/r7text_hotai/))

### ア. 主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫

- 口絵では、スポーツの魅力などから、興味・関心を高められるようにしています。
- 各章の扉では、資料や情報を豊富に掲載し、学ぶ意欲を高めるほか、これから学びたいことや学んだことを表現する欄を設け、学びを自分ごとにする工夫をしています。
- 各時間の「ウォームアップ」では、短時間で興味・関心を高めたり、課題に気づいたりできるようにしています。
- 「探究しようよ!」は、生徒の興味・関心や習熟度、学校や地域の実態に応じて活用することができ、個別最適な学習にも対応しています。

### イ. 知識及び技能の習得のための工夫

- 正確な本文と豊富な科学的資料で、しっかりと知識を身に付けることができるようにしています。
- 各時間最後の「学びを生かす」で、知識をまとめたり、深めたり、活用したりできるようにしています。
- ストレス対処や心肺蘇生法などの身に付けるべき技能には「技能」のマークを付しています。正確なイラストや写真のほか、二次元コードから参照できる動画を活用して、実習を行いやすいようにしています。特に心肺蘇生法の実習では、手順とチェック項目をまとめて示し、協働的に見合ったり、教え合ったりしながら学べるように、紙面構成を工夫しています。

### ウ. 思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫

- 正解が一つに定まらないような課題、話し合いを促すような課題、表現するように工夫された課題を随所に設けています。
- 各章の扉では、学びたいことや学んだことなどを、文や絵、図などで記入できるスペースがあります。また、資料や課題文の読み取りなどを随所に設けています。
- 二次元コードから参照できるデジタルコンテンツでは、実際に入力してどうなるかを確認する教材や、生徒が主体となってロールプレイングを行えるようサポートする教材を豊富に用意しています。

### エ. 学びに向かう力を高める工夫

- 1時間は3段階の基本構成で、考えたり、話し合ったり、調べたり、教え合ったりしながらどのように学んでいくか、イメージを持つことができます。
- 各時間の初めに「ウォームアップ」を設定しています。生徒が自ら興味・関心を持ってこの時間の学習

の課題に気づくことができます。興味・関心が十分に高まったうえで学習を進めることができ、主体的・対話的で深い学びの実現につながります。

### オ. 現代的な課題にかかわる工夫

- 心の健康では、コミュニケーション（気持ちの伝え方）の実習を充実させています。また、動画コンテンツを用いてリラクセーションの実習ができるようにしています。「心と体の SOS」として、いじめなどへの対応についても学習できます。
- 喫煙・飲酒・薬物乱用は、中学生の身近に迫る課題と捉え、デジタルコンテンツのシミュレーション教材を用いて、誘いを断る実習ができるようにしています。また、行動嗜癖も探究的に取り上げています。
- 性の多様性は、包括的性教育の視点を踏まえて、文部科学省『生命（いのち）の安全教育』と関連づけて学習できるようにしています。「性の多様性」を探究的に扱い、イメージを固定化せず正しく理解できるように、イラストや写真を用いない構成にしています。
- ウェルビーイング／防犯・防災／がん教育／情報活用能力・情報リテラシー／食育／ユニバーサルデザインなど多岐にわたる課題を、学習内容と適切に関連づけて取り扱っています。
- 中学校保健体育科の目標にあるように、これからの中学生は、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために、運動・スポーツや健康・安全についての科学的認識と課題解決能力を身に付け、実生活の中で応用し、主体的に行動できるようになることが求められます。これを踏まえ、『新・中学保健体育』では、ウェルビーイングに向かう力を育てることを大切にしています。

### カ. ICT の利活用にかかわる工夫

- 教科書の二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツを自ら選んで活用できるように、「章デジ」を設けています。
- タブレットやパソコンなどを使用して行う探究的な活動も取り上げており、ICT を活用した授業が行えます。また、学習者支援機能を持った「学習者用デジタル教科書」と「指導者用デジタル教科書（教材）」も発行しています。
- デジタルコンテンツには、動画やシミュレーション教材、ワークシートなどの多様なコンテンツがあります。

### キ. ユニバーサルデザインの観点で取り入れた工夫や配慮

- 誰一人取り残すことのない教育を目指して、ユニバーサルデザインの考えに基づいて配色や色、書体、紙色、表現などを精査し、誰もが見やすくわかりやすくなるように編集しています。
- 例えば、グラフでは、色数を少なくして読み取りやすくするとともに、色以外で判別できる工夫など、色覚特性への配慮もしています。書体は、本文や見出し、資料において、ユニバーサルデザイン（UD）フォントを使用し、読みやすさに配慮しています。
- 誰一人取り残さない学びを実現するために教師用指導書で、一部『やさしい日本語』版を提供します。